次回掲載は8月4日

スポニチキャンパス

コロナ禍で全国大会中止…それでも前を向く球児

あべの翔学高 軟式野球部

高校編

全国初出場で準決勝まで進出

夏の目標は決まった。あべの翔学高軟式野球部が〝大阪連覇〟に向け練習を再開した。新型コロナウイルスの影響で、連続出場を目指していた全国高校野球軟式大会は中止となった。昨年、創部3年目で大阪大会を制し、初出場で準決勝に進出した。今季の目標は、もちろん「日本一」だった。全国の舞台に立つことはできないが、チームの持ち味である積極的野球で、8月に開催される大阪府の代替大会で必ず優勝してみせる。

徹底した積極的野球が、短期間でチームを全国レベルに引き上げた。昨年、創部からわずか3年で全国大会に初出場すると準決勝にまで進出した。

昨夏の全国大会2回戦の松商学園戦では、積極的野球がチームを救った。現主将の土師（はぜ）駿人（3年）が左翼の守備で失策を犯した直後のベンチでのことだった。「緊張でエラーして泣いていた時に、先輩たちが〝おまえのために打ったる〟と言い、逆転してくれた」。後輩を責めるのではなく、より積極的にバットを強振してミスをカバーしてくれた。

だからこそ、今度は自分たちが全国の舞台で、チームを救う積極的野球を見せたかった。しかし、新型コロナウイルスの影響で全国大会は中止となった。目標を見失いかけたときに、大阪大会の代替開催が決まり〝連覇〟への挑戦権は得られた。

約3カ月ぶりに練習が再開された6月15日。要泰樹監督(27)と平松泰岳部長(27)が3年生を校舎の屋上に呼び出し気持ちを確認した。

「これから練習を続けるかどうかは自分たちで考えて決めなさい」。全員が「やります」と即答した。

「全国につながらないのは悔しい。でもこうなったからこそ〝また頑張ろうな〟と団結できている」と土師主将はチームの成長を感じた。練習再開後は全員が毎日居残り練習するなど、次なる目標へと突き進んでいる。

軟式へのこだわり 野球離れ防ぎたい

結束力の強いチームには縁の下の力持ちがいる。試合中のベンチ内では永田陸(3年)が「実力では勝てない。自分ができることでチームに貢献したい」と、率先してベンチを掃除し、打席に向かう選手のためにバットを用意するなどベンチワークに徹している。

自粛で放置されていたグラウンドの雑草に気づいた横田朋哉(3年)は、普段より1時間早く登校し、授業が始まるまで草むしりに汗を流した。全体練習後には居残りノックを志願するなどチームの士気を高めている。

1929年に大阪女子商業として開校し、14年に現校名となり共学となった。

15年頃に活動を開始した当初は〝キャッチボール同好会〟だったチームが、今では高校軟式野球部として全国最多の68人を擁する。

平松部長は「中学時代は軟式で、高校進学の際に〝硬式だから〟と一歩を踏み出せない子が多い。創部は硬式と迷ったが、そういう子の野球離れを防ぎたい」と軟式野球部にこだわった。

多くの人の思いを背負って始まる夏。エースの田原虎太郎(3年)は、「優勝してもう一度あべの翔学の名を広げたい」と意気込んだ。（田中 想乃）

目標新たに 大阪連覇

〝大阪連覇〟を目指すあべの翔学高校軟式野球部ナイン（撮影・平嶋理子）

関西屈指のトレーニング施設で部員らは力をつける

徹底した積極的野球で 昨年創部3年目で全国の地

チームをまとめる土師主将

苦しみを力に変える福田

逆境克服の福田 恩返しの活躍を

○…逆境を乗り越えラストシーズンを迎える。福田陸人（3年）は、1年冬からイップスに悩まされ、2年秋まで普通にボールを投げることができなかった。「冬はランニングメニューしかできず、本当につらかった」。要監督にマネジャーへの転身を打診された際は1カ月悩んだが、部員たちの「お前はまだやれる」という言葉に励まされ思いとどまった。「苦しんだ分、恩返しのつもりでやりたい」。その目には闘志がみなぎっていた。

縁の下の力持ち永田

優勝へ意気込むエースの田原

平松泰岳部長（左）と要泰樹監督

チームの士気高める横田

自主性を重視

○…要監督と平松部長は岸和田市立山直（やまだい）中時代の同級生。15年に同校へ着任した平松部長が野球部を創部するために、すでに大阪府内の中学に採用が決まっていた要監督を勧誘した。お互いを知り尽くしているコンビが、創部当初に掲げた方針が積極的野球。要監督は「失敗を怒らない。前向きに捉えさせる」と選手たちの自主性を2人でバックアップしている。

わが校の名物先生 経営者、解説者多くの経験武器に新しい風吹き込む

保健体育科 鈴木慶太教諭

バスケットボール部顧問の鈴木慶太教諭(52)は、SSCセンター長としてもあべの翔学に〝新しい風〟を吹き込んでいる。

日体大卒業後は松下電器（現パナソニック）でバスケ部のマネジャーを9年間務め、退社後はスポーツバー経営を6年半続けた。畑違いのように見えるが、マネジメントを学ぶ上では共通点があった。その後、保健体育の教師として大阪府立高の教壇に立つなどし、2014年、女子校から共学となった時に採用された。

『スポーツ専攻』の立ち上げにも尽力し、プロバスケットボールBリーグの解説者を務めるなど「教育の場以外で学んだことが役に立っている」と、高校生たちに刺激を与えている。

「スポーツが文化として認められれば、必ずスポーツに携わるような仕事が増えてくる。そちらの方が絶対にニーズが多い」。多くの経験を指導で実践している。（須田 麻祐子）

▼SSC（スクールスポーツセンター）保健体育科の教諭と運動クラブ顧問、養護教諭によって構成され、運動クラブ全体の運営を管理、統括する組織。クラブ単体で活動するのではなく、すべての教諭が運営、活動に関わることで、より多くの視点で生徒を見守る利点がある。

▼あべの翔学高校 1929年（昭4）、大阪市東区糸屋町に前身の大阪女子商業学校が開校。51年（昭26）学校法人朝陽学院に組織変更。2014年（平26）に男女共学化となり現在の名称に。昨年、吹奏楽部が大阪府吹奏楽コンクールで金賞を受賞するなど、各部が目覚ましい活躍を遂げている。現在の所在地は大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8の19。

異常件数1 内容=割付要素なし！

【割付要素抜けID】=//
71.73% 処理時間：2020/7/2 17:52:48［0:00:10］ JOB番号：232020070217524056575 大刷り
大阪本社 2020/7/7 大7面 カレント ［頁：0］ 面版ID：218454416 okum カレント